

# 堺市立幼稚園の和音感教育を取り入れた保育実践

—— 1938 (S 13) 年版と 1939 (S 14) 年版の二つの保育実際案の比較 ——

## Teaching Sakai City Kindergardeners Harmony-based Listening in Pre-war Japan : A Comparison of 1938 & 1939 Curriculum Plans

菅 道 子

Michiko KAN

(音楽教育)

2019年10月14日受理

### 要旨

本稿は、1930年代末に大阪府堺市立第一幼稚園において取り組まれた和音感教育実践について、1938 (S 13) 年版と 1939 (S 14) 年版の保育実際案を比較検討し、その具体と特質を明らかにすることを目的とするものである。二つの保育実際案からは次のことが明らかであった。第 1 には、視学佐藤吉五郎の指導のもと第一幼稚園では、保育の中に毎日の和音感教育を取り入れ、改善しながら実践を蓄積していった。この和音感教育は音楽内容の系統ではなく、子どもの学習活動に基づいて順序だてる方法を模索するものであった。この実践は 2 年間の試行錯誤の中で教材や指導方法の開発を積極的に行った保母たちの実践力に依るところが大きかったといえる。第 2 には、和音感教育にかかわる指導内容・方法が 1 年の間に量的に拡大したこと、あわせて身体動作を伴うリズム活動やゲーム的要素を含んだ遊戯活動も増加し、楽曲による総合的な和音感教育から総合保育主題の中に和音感教育を取り入れるものへと保育計画が変化していったことである。すなわち和音感教育の遊戯化、総合化を図り、それを改善の方向性としたといえる。このことは、限られた保育時間の中で幼児の興味関心のもと和音感教育を実現していくために必要な要件であり、保育と和音感教育を両立させるための折衷的着地点であったといえよう。

### 1. はじめに

本稿は、大阪府堺市の視学佐藤吉五郎(1902 (M35) ~1991 (H 3))<sup>1</sup>指導のもとに1937 (S 12) 年から実験的に展開された大阪府堺市立第一幼稚園での和音感教育のうち、1938 (S 13) 年版と 1939 (S 14) 年版の和音感教育の保育実際案を比較検討することにより、戦前堺市の幼稚園における和音感教育の特質を明らかにしようとするものである。

1930年代の堺市幼稚園の和音感教育について鈴木慎一郎(2012)は、堺市視学佐藤吉五郎の指導のもと歌や遊びも取り入れて幼児の和音感教育を実施していたことを音源資料(SPレコード)も含めて分析している<sup>2</sup>。また山下薫子(2005)は、第一幼稚園園長北山ナホの実践に言及し、子どもの生活にふさわしい形での音感教育の工夫をもちながらも、そうした題材と音楽的な関連性を図ることについては限界があったのではないかと指摘している<sup>3</sup>。さらに菅道子(2012A, B, 2014)は、堺市が広報用に発表してきたSPレコード、記録映画の採録と解題を行い、幼稚園並びに小学校での和音感教育の概要を捉えてきた<sup>4</sup>。これら先行研究により佐藤吉五郎の和音感教育の理論並びに実践の一端が明らかにされてきた。しかし、より具体的に幼稚園での和音感教

育の実践経過とその特徴を明らかにしようとするのは、1930年代の公立幼稚園での和音感教育が希少な事例であるためである。それは第 1 に、音感教育、和音感教育と称されるものは、1930年代にピアニスト園田清秀により考案された元来個人を対象とするピアノの基礎教育であり、公教育の場で集団を対象とし、さらに堺市のように 5 園の幼稚園と 20 校の小学校という広範な規模で実践されること自体が特殊な事例と捉えられるからである。

第 2 に国民学校芸能科音楽に聴覚訓練が導入される際に堺市の和音感教育の影響があったと考えられるからである。佐藤吉五郎は戦後に「神奈川県、千葉県会議員団、母校東京音楽学校教官、文部図書編纂委員、とあらゆる階層の参観者があったが、この陸軍の爆音レコードの判別テストが、そもそも戦中の音感教育につながるきっかけになった」<sup>5</sup>と述べているように、国民学校芸能科音楽への音感教育導入に際し、堺市の実践が影響を与えたと認識している。

和音感教育は、早教育として就学前からの開始が効果的であり、佐藤が小学校とともに幼稚園も含めて和音感教育の対象としたことは合理的な判断であった。また、小学校と幼稚園での実験的試みは、佐藤が視学

の立場で教育行政に携わっていたことで一括して指導・監督して実施できた事例である。爆音レコードの判別テストも第一幼稚園で実施されたというように和音感教育の記録は小学校よりも幼稚園のものが数多く残された。

そこで本稿においては、堺市の和音感教育の実態解明に向けた作業の一環として第一幼稚園で実験に行われた1938(S13)年と1939年(S14)年の保育実案を取り上げ、その内容の比較検討を通して、幼稚園での和音感教育の指導の変化からその特徴を捉えていくこととする。

## 2. 1930年代堺市立幼稚園における和音感教育の実施

### 2.1. 幼稚園での和音感教育の実施体制

1930年代後半以降、戦時体制下の大阪府堺市は義務教育における軍国主義・国家主義化の徹底が図られ、その点から科学教育・体育とともに和音感教育を重点化する方針をとったという<sup>6</sup>。

この和音感教育の実施体制について佐藤は次のように述べている。佐藤は「私は昭和12年4月から全市いっせいに、ドイツ音名による和音感教育を実施、移動階名唱を全廃した。私は3ヶ年間の予定で、内部のまさつ、外部の批難を覚悟の上で無言で努力した。はじめ各校(全市20校、幼稚園5園)に音楽科の研究主任を置き、3年以下の受持担任全員に音楽の授業を受け持つように懇請した」<sup>7</sup>、また幼稚園では「新しい遊戯を考案し、毎週実地教育を公開する・・・(中略)・・・各校音楽主任は総て、大張り切りであったし、具体的な意見が続出した」<sup>8</sup>と述べている。また「幼稚園の先生は、音感遊戯の遊具を80幾種も考案発表した」<sup>9</sup>とあるように、具体的な授業の内容方法についての研究・実践を先導したのは幼稚園の保姆たちであったことが伺える。

また、堺市は1930(S5)年に保育振興を目的とし、幼稚園職員の研修、研究調査を実施する機関として堺市保育会を創設した<sup>10</sup>。堺市保育会の活動として1938(S13)年10月17日第43回関西連合保育会(於：岡

山市内山下尋常高等小学校)では、佐藤吉五郎と森田保母(第一幼稚園)が「幼児の音感教育について」の研究発表を行っている。これについては「現下教育界注視の問題として非常な関心が寄せられ、為に他の発表が割愛された程であった」<sup>11</sup>と盛況ぶりが報告されている。

### 2.2. 第一幼稚園の和音感教育にかかわる指導者並びに資料について

上記実践を報告した第一幼稚園は、1886(M19)年5月1日に開口神社内に幼児57名を収容し「私立堺幼稚園」として開園したのがその始まりといわれる。次第に入園児が増え堺県師範学校寄宿舎跡に1887(M20)年3月に移転し、「公立幼稚園」として開園式が行われた。しかし、その後経済的な行き詰まり等で1889(M22)年に一度廃園となるものの、1899(M32)年に発起人が府に願い出て、同年10月に改めて開口神社の連歌所を仮園舎として開園した<sup>12</sup>。

表1は1930年代の第一幼稚園の園長と保母で確認できたものを整理した一覧である。第一幼稚園では、和音感教育を実施していた1937(S12)年～1945(S20)年までに2人の園長が在職している。保母の氏名、履歴等については今後調査する予定である。

表1に示したように、北山ナホが園長だった1937(S12)～1942(S17)年の期間は、和音感教育を実験的にを行い、著作・レコード・映画等のマスメディアを通してその実践を発信していった萌芽・発展の時代といえよう。この北山園長時代の年間の保育実践については複数の資料が残されており、以下のものがあげられる。

1. 堺市保育会編「幼児の和音感教育について」(1938年10月、ガリ版刷り印刷)<sup>13</sup>
2. 「附録(一) 一箇年の保育実案」佐藤吉五郎『和音感教育』(1940年、三喜堂)<sup>14</sup>
3. 「附録(一) 一ヶ年の保育実案」佐藤吉五郎『和音感教育 改訂版』(1941年、三喜堂)<sup>15</sup>

表1 和音感教育実施時の第一幼稚園の保母

年月	園長	保母	備考
1937(S12)～1942(S17)	北山ナホ	佐々木(佐藤)静子 吉村(坂上)勝子 吉川(森田) 近江、里井 入間(大道)綾子	( )は旧姓 この時期に1.～7.の資料が発行されている。
1942(S17)～1945(S20)	佐々木(佐藤)静子	入間(大道)綾子、 吉村(坂上)勝子、 里井、藤井、森田	

(堺市立第一幼稚園編『創立90周年記念』(堺市第一幼稚園、1992年)、100周年記念実行委員会『創立100周年記念誌100年のあゆみ』(堺市立第一幼稚園、2002年)、堺市立第一幼稚園「昭和十六年第三十九回保育修了記念帖」の写真より作成)

4. SPレコード『和音感教育の実際』（1940年、ビクター A-3085～3089 5枚組）
5. 記録映画『子どもと歌(耳と国防)』（1940年、東亜発声ニュース映画製作所）
6. 全日本保育連盟編『保育』（1941(S16)年3月～1942(S17)年2月、保育発行所）  
ここでは「幼稚園に於ける和音感教育講座」がシリーズ化された。理論篇は堺市視学の佐藤吉五郎、音楽教育家・作曲家の二葉薫の記事とともに、実際篇は堺市立幼稚園5園の園長(第一幼稚園北山ナホ、第二幼稚園佐々木静子、第三幼稚園遠藤孝子、翁橋幼稚園桜井鱗子、向陽幼稚園八坂実枝)が交代で各園の実践を報告している。
7. 国民保育協会編『国民保育』（1941(S16)年4月～1942(S17)年2月）  
第一幼稚園北山ナホが12回にわたり和音感教育の実際を報告している。

この中の1. 堺市保育会「幼児の和音感教育について」(1938年10月、ガリ版刷り印刷)、2. (附録一)「一箇年の保育実際案」『和音感教育』(1940年、三喜堂)と3. 附録(一)「一ヶ年の保育実際案」『改訂和音感教育』(1941年、三喜堂)の資料は実践した保育を継続したものとして貴重である。そのうち2. 「一箇年の保育実際案」は、ガリ版刷りの資料「幼児の和音感教育について」(1938年)と一部同一のものであり、1938年版の保育実際案であると考えられた。そして3. 「一年間の保育実際案」は1938年版を更新した1939年版の保育実際案と考えられ<sup>16)</sup>、1箇年の変化を見ることのできる資料であった。

そこで、次にこの二つの保育実際案の内容を比較検討し、第一幼稚園で実際どのような和音感教育が実施されていたのか、またどのような方向性を目指して改

善を進めたのかを考察する。

### 3. 第一幼稚園における和音感教育を取り入れた二つの保育実際案

#### 3.1. 二つの保育実際案に見られる指導項目

巻末表は1938(S13)年版の保育実際案(以下1938年版保育実際案)と1939(S14)年版の保育実際案(以下1939年版保育実際案)の各1年間の指導内容を再録したものである。表にする際には1938年版のカタカナ表記はひらがな表記にし、1939年版と同一にした。

下記の表2は、二つの保育実際案にみられる指導項目と教具、指導法の工夫を要約したものである。名称が若干変わっているが基本的には、『和音感教育』、『和音感教育改訂版』をみると次の学習を想定していた。

①五線の観念の指導、②音名位置(1939年版②音名指導)は、五線譜並びに音名名称と五線譜上の位置についての理解、③拍節的読譜練習は、拍子打ちをしながら拍子を数えたり歌詞を一音程のまま唱えたりする練習、④和音感訓練(1939年版④和音聴音)は、主要三和音を聴き取って歌う練習、⑤和音分離分割唱(1939年版では⑤抽出唱(分離唱)、⑥分散唱(分割唱)は、和音の構成音を下または上から順番に歌う練習、⑥単独和音三声唱(1939年版⑧同)は、伴奏無しでの単独の和音唱の練習となる。追加されている1939年版の⑦単音抽出唱(自由発唱)は、和音の中から構成音の一つ(第1音、第3音、第5音)だけを抽出して歌いだす練習、⑨カデンツ三声唱は、終止形(カデンツ)となる和音進行を三声唱で歌う練習、⑩重音合唱は、合唱曲の練習を指している<sup>17)</sup>。

#### 3.2. 1938(S13)年版保育実際案の特徴

最初に、和音感教育を開始した1938年(S13)年版保育実際案の特徴を見ることとする。巻末表の左側が

表2 二つの保育実際案にみられる指導項目と教具、指導法の工夫

	1938(S13)年版保育実際案	教育、指導法の工夫	1939(S14)年版保育実際案	教具、指導法の工夫
指導内容	①五線の観念の指導 ②音名位置	恩物の箸、音名カード、オハジキ、輪投げ、ボール入れ。	①五線の観念の指導 ②音名指導	五指五間の歌 音名カード、オハジキ
	③拍節的読譜練習		③拍節的読譜練習	
	④和音感訓練	和音カード遊び、輪取り遊び	④和音聴音	「蝶とお花」「兎と亀」などの楽曲和音のリズムによる動作遊び、カード取り遊び
	⑤和音分割分離唱 ⑥単独和音三声唱	「縄とび」「ゆふがた」など楽曲による総合的な和音感訓練	⑤抽出唱(分離唱) ⑥分散唱(分割唱) ⑦単音抽出唱(自由発唱) ⑧単独和音三声唱 ⑨カデンツ三声唱 ⑩重音合唱	総合保育主題の中での総合的な和音訓練
		ただ一つ「雛祭り」は総合保育科目		



1938(S13)年版保育實際案となり、1938年4月19日～1939年3月20日までの40週の指導概要が記されている。1938年版保育實際案となるガリ版刷りの「幼児の和音感教育について」には「毎日一回音名指導並びに和音感訓練をいたしました」とあり<sup>18</sup>、毎日、和音感教育を実施していたことが明記されている。巻末表の保育實際案を通観すると次の4点の特徴があげられる。

(1)1938年版保育實際案の指導内容は和音構成の順序に合わせた指導系統

表2に示したように、1938年版保育實際案を見ると、その指導内容項目は①五線の觀念の指導、②音名位置、③拍節的読譜練習、④和音感訓練、⑤和音分離分割唱、⑥単独和音三声唱の6項目から成っている。

巻末表の保育實際案の指導内容を見てみよう。ドイツ音名位置の指導は、第1週から第6週までを見ると、その順序はC、E、G、F、A、Dとなっており、加えて和音感訓練はCEG(Iの和音)、CFA(IVの和音)、HDG(Vの和音)の順序で主三和音の構成音から指導したと記されている。また、第11週からは和音分離分割唱(主三和音)、第14週からは拍節的読譜練習、第16週からは書取り練習を組み入れている。このことより、9月5日の第15週までの指導内容は比較的余裕をもって行われていることがわかる。

(2)教具の活用による視覚化、遊びの中での指導の重視

指導上の特徴としては、幼稚園ならではの遊具・教具の工夫がなされたことがあげられる。例えば音名位置の指導の際には、恩物の簞(図1)やオハジキ(図2)、輪投げ、五線の羅紗塗板(図3)などの教具を使った音当てゲームをするなどの工夫がみられる。

(3)楽曲教材を使った総合的な和音感教育の設定

指導法の特徴として、1938(S13)年版保育實際案では楽曲による総合的な和音感教育を実施したことがあげられる。特に後半期に多い。

巻末表の第22週をみると「今週ヨリ平易ナハ調ノ歌曲ヲ選ンデ之ヲ板書シテ音名練習一拍節的読譜練習一

和音分離発唱ニ依ル読譜ノ唱謡ヘト総合的ニ取扱フコトトシタ。歌詞ハ口授法ニ依ル」として《縄とび》と《ゆふがた》の2曲を新授歌曲として記載している<sup>19</sup>。その後《歌のけいこ》《宿がへ》《夕焼小焼》《お洗濯》《進軍》等々、生活題材から軍国主義的なものまで多様であるが、それらの楽曲による総合的な和音感教育が続いていくこととなる。また第23週をみると《宿がへ》との関連があるのか「和音のリズム遊び・・・動物遊び」とする和音感教育の活動が示された<sup>20</sup>。これらは佐藤が「全市立幼稚園児には右の基礎訓練のすべてを遊戯化するように命じ」と言うように<sup>21</sup>、和音感教育が訓練的で無味乾燥なものにならぬよう遊戯的活動を促進する方針を示したことの具体例である。

(4)和音感教育と保育主題の両立にかかわる問題の発生

1938年版保育實際案において、楽曲による和音感教育と保育主題の両立の困難さが年度末に浮き彫りとなった。

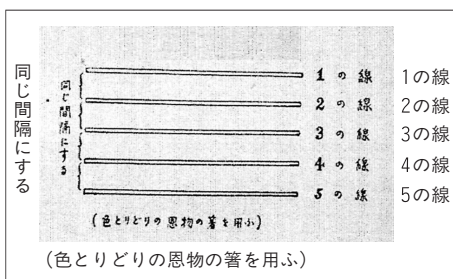
第33週を見ると、1938年版保育實際案において初めて楽曲による和音感教育と保育主題の行事とを統合する動きがみられる。記録には、新授曲《豆撒き》について「基本的既習事項ヲ構成的総合的ニ練習」とすると同時に、「二月ノ行事、節分ニ因シテ豆撒キノ新授唱歌ニ対シ、和音感訓練ノ遊戯トシテ和音ノリズムニ依ル豆捲キ遊ビヲ行フ」とある<sup>22</sup>。

一方、第36～38週には保育主題と和音感教育の両立の難しさに直面したことが記されている。ここでは「雛祭り」の行事をあげ、「三週間ニ互リ保育主題「雛祭り」ノ系統的保育ノタメ和音感教育ヲ行フ時間ガ甚ダ少ク、新和音D F G Hヲ新授シタノミニテ復習ニ重キヲオキ徹底ヲ計ルコトトシタ」とある<sup>23</sup>。こうしたことは、1939(S14)年版に保育主題の中に和音感教育の取り入れ方を模索する一つの契機となった。

### 3.3. 1939(S14)年版保育實際案の特徴

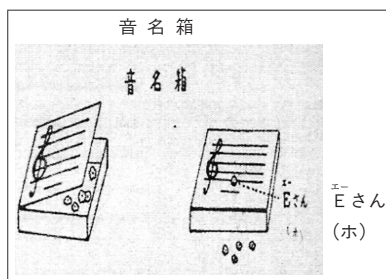
次に1939(S14)年版保育實際案を見てみよう。巻末

図1 恩物の簞



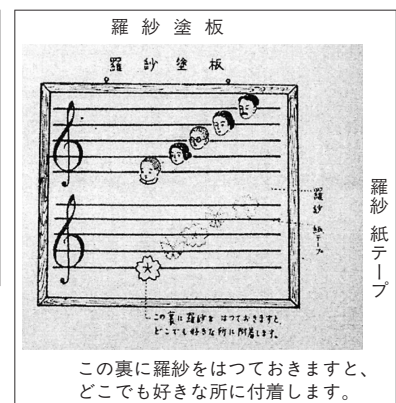
(全日本保育連盟『保育』第47号、  
保育発行所、1941年3月、p.40より)

図2 音名箱とオハジキ



(全日本保育連盟『保育』第47号、  
保育発行所、1941年3月、p.42より)

図3 羅紗塗板とオハジキ



(全日本保育連盟『保育』第47号、  
保育発行所、1941年3月、p.42より)



表右側のもので1939年4月10日～1940年3月23日までの43週の指導概要が記されている。巻末表の1939年版保育實際案を通観すると次の3点の特徴があげられる。

(1)1939年版保育實際案は和音感教育の指導内容と方法が増加

1939(S14)年版保育實際案をみると、その指導内容は表2に示した通り、①五線の観念の指導、②音名指導、③拍節的読譜練習、④和音聴音、⑤抽出唱(分離唱)、⑥分散唱(分割唱)、⑦単音抽出唱(自由発唱)、⑧単独和音三声唱、⑨カデンツ三声唱、⑩重音合唱の10項目からなり、1938年版の6項目より増えている。具体的には和音分割分離唱を抽出唱(分離唱)⑤と分散唱(分割唱)⑥に分け、さらに単音抽出唱(自由発唱)⑦、カデンツ三声唱⑨、重音合唱⑩の内容が増加している。

巻末表に示した1938年版保育實際案と比べると1939年版保育實際案では、初期のうちから五線と音名指導①②と和音聴音④だけでなく、第2週より拍節的読譜練習③、第4週より抽出唱(分離唱)⑤、第6週より分散唱(分割唱)⑥といった和音教育を開始している。初期からの和音感教育を実施できるよう、佐藤は楽曲教材の開発をすすめた。例えば、訓練的になりがちな和音感教育を改善するために「子供の心理を

よく捉え最初から耳に対して自信を持ち、楽しく聴かさずにはおかぬように工夫」するとして楽譜1の楽曲教材を作曲している<sup>24</sup>。楽譜1の《分散唱・抽出練習唱歌》(佐藤吉五郎作曲)はその一例である<sup>25</sup>。

この曲の旋律は、ハ長調の主要三和音で伴奏づけられる旋律線を使い、歌詞は「〔児童〕ワタシノオミミハウサギノオミミ ドンナオトデモキコエマス」、「〔教師〕ソレソレナルヨ (和音聴音)」、「〔児童〕ハー、ハー、トー(分散唱)トナッテマス」と教師と児童の問答式の遊び歌のように構成されている<sup>26</sup>。この曲を用いてウサギの耳を模して遊戯的に歌いながら、いつでも和音分散唱ができるような曲となっている。

(2)音名指導の順序にみる動作遊戯の活動順序に基づいた指導系統

1939年版保育實際案において音名指導の順序は、1938年版保育實際案の和音構成音の順であったC, E, G, F, A～とは異なり、E, G, H, D, Fに変更されていた。これは楽譜2の《五指に依る音名練習唱歌》を取り入れて指導したことに依ると考えられる。即ちEの音は五本指の小指に位置し、Gの音は薬指、Hの音は中指に位置しており(図4)、五本指の順番に合わせた学習順序に変更になったためである。この楽曲は、左手の指と音名、さらに五線の対応関係を実感的に身

#### 楽譜1

**分散唱・抽出練習唱歌**

児童

ワタシノオミミハウサギノオミミ ドンナオトデモキコエマス

教師 (和音聴音) (分散唱) 児童

ソレソレナルヨ 三四 ハーハー ト トナッテマス

註 1. 和音は既習和音を適當に入れてよし、  
2. 和音を二つ以上連続する時は分散唱も連続して行ふ、  
3. 分散唱は分離音名を指定して行ふ、

(佐藤吉五郎『和音感教育 改訂版』三喜堂、1941年 p.266より)

#### 楽譜2

**五指に依る音名練習唱歌**

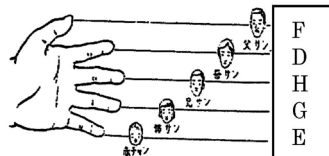
【拍子ついて】

コレハ	ワタシノ	ト	ウサン	F	サレ	ミンナ	ワタシノ	オウチノ	カタヲ
コレハ	ワタシノ	カ	アサン	D	サン	(拍手しながら)			
コレハ	ワタシノ	エ	イサン	H	サン				
コレハ	ワタシノ	ネ	ユサン	G	サン				
コレハ	ワタシノ	ア	カチン	E	サン				

D サン F サン A サン C サン E サン G サン ミンナ ワタシノ オトモダナ

(拍手しながら)

図4 五指と音名



(佐藤吉五郎『和音感教育』三喜堂、1940年 p.134より)

北山ナホ「幼児と和音感教育の実際」『国民保育』1(4) フレーベル館、1941年4月 p.61より)

に付けることをねらいとした歌であり、手遊び活動として学習できるよう工夫されたものであった。

### (3) 総合保育主題の中で展開する和音感教育

1939年版保育実案において、指導方法を総合化する変更も見られた。1938年版保育実案では、楽曲教材による総合的な和音感教育を実施していたのに対し、1939年版では、早い時期から動作遊びや遊戯の中で和音感教育が行われ、7月の「七夕祭り」以降、総合保育主題の中に和音感教育を組み込み活動するよう指導方法を変更したことがわかる。

初年の1938年版保育實際案においても、第23週になると「動物遊び」の例にみられるように、和音感教育を遊戯的活動として工夫する様子がみられた。それが1939年版になると初期から複数見られるまでに増加した。例えば第4週は「ウサギと亀の和音リズム遊びにより興味的に行ふ」、第7週は「汽車遊びによる和音リズムの動作表現をさせる」、第9週は「小さいお庭と題し和音とリズムを結びつけた音感遊戯を行ふ」、第11週は「毬さがし遊びによる興味的訓練」として和音感教育が設定されていた。さらに7月の第12週には「七夕祭りの和音リズム遊びを行ひ興味的に訓練をなす」と和音聴音として記述されるだけでなく、「綜合保育主題を七夕祭りとして他の保育項目との連絡に留意しつゝ、綜合的に取扱ひ楽しく基礎訓練を行ふ」として「七夕祭り」という綜合保育の中に和音感教育を組み入れ関連づけようとする発想の変化が見られるようになった。

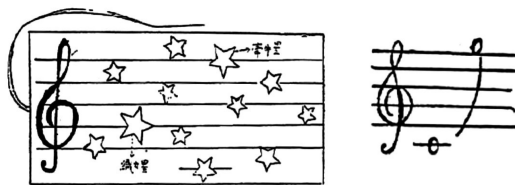
「七夕祭り」の指導については、1941年6月に北山ナホが雑誌『国民保育』に実践例を報告している。記事では、和音感教育自体は音名指導、和音聴音、分離

分割唱、音名リズム読み等を行う中で、五線板に記した音符が天の川を連想できるよう星形にする等の工夫がみられる。冒頭には「今週は七夕祭りが保育の主題になって居りますので、和音感訓練もその生活の一部として取扱ひます」とあり<sup>27</sup>、「七夕祭り」という保育主題の様々な活動の中で和音感教育だけが突出せず自然な形で実施できるよう工夫したものと言えるだろう。

その後も第14週「夏の海」、第15週「夏の自然(蟬)」、第18週「自然の恵み(植物)」、第20-21週「お月見(月夜の兎)」、第22-23週「防空演習」、第24-28週「収穫の秋(収穫遊び)」、第29-30週「秋の自然(木の葉)」、第31-第33週「お正月(お正月遊び)」、第34、35週「動物の鳴声遊び」、第36、37週「節分(節分遊び)」、第38、39週「春の小さなお庭」、第40-43週「ひなまつり」といった総合保育の題材を設定し、その中で和音感教育が展開された。前述したように、幼稚園では「新しい遊戯を考案し、毎週実地教育を公開する」という方針に従い<sup>28</sup>、保母たちはそれぞれに自分の学級の子どものための保育内容とその指導のための遊戯を考案し情報交換しながら指導方法を開発していったと思われる。

より総合保育と関連づけた活動例としては第40-43週「ひなまつり」を挙げることができる。それは『和音感教育 改訂版』(1941)の中に「雛祭り」の遊びに依る和音感基礎訓練の総合的遊び」として2カ年実施したものが紹介されている<sup>29</sup>。そこでは雛祭りの「和音聴音遊び」に利用する配役(内裏様、三人官女等)やそれらに関する道具類などを「大部分は手技作業として幼児に制作させる」ところから活動をはじめ、「和音聴

図5 たなばたの星と天の川を模した音符と五線板



(北山ナホ「和音感教育の実際－第12週七夕」『国民保育』1(6)、フレーベル館、1941年6月、p.64より)

図 6-1. 「ひなまつり」教材・教具

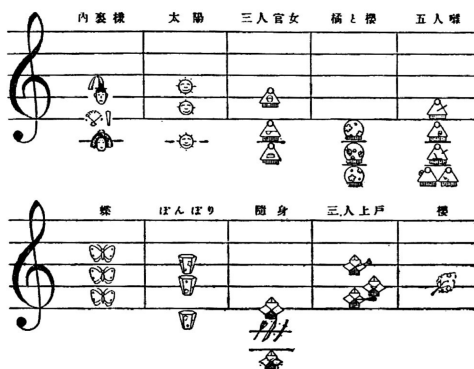
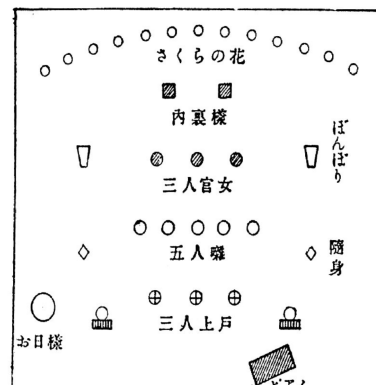


図 6-2. 遊びの体形



(佐藤吉五郎『和音感教育 改訂版』三喜堂、1941年 p.274, 276より)

音遊び」を行っている。活動は次の通りである<sup>30</sup>。

図6-1に示したようにハ長調の主和音の第1、第2展開形をそれぞれ内裏様(CEG)、太陽(CFA)、三人官女(HDG)、橘と櫻(えい)(GHD)等というように見立て、子どもたちが各音の担当となる。これをもとに「和音聴音リズム遊びA」活動では、指導者が任意に弾く和音を聴き、幼児は即時に和音唱をし、和音のリズムに合わせて雛壇の観察によって得た情報をもって、図6-2のように所定の場所に行き、用意した10種の和音聴音がなされると、全幼児による雛壇が構成される。

「和音聴音リズム遊びB」活動では、さらに指導者が任意の和音を弾くと、幼児は自分の音が鳴った際にその都度音唱をし、和音のリズムに合わせて動作(例えばヘトロ(FGH)の三人上戸は御殿を掃除する動き、ハホト(CEG)の内裏様は扇と笏を動かす等々)をするといった即時反応をして遊ぶ活動となっている。

佐藤は、1938年版保育実際案に記されていた「三週間ニ亙り保育主題「雛祭り」ノ系統的保育ノタメ和音感教育ヲ行フ時間が甚ダ少」かったことを振り返り<sup>31</sup>、総合保育の中にこの題材を入れることにより「雛祭りといふ和音感遊びの存在が長期間継続する系統的保育の流れをきわめて円滑な自然なものとする」<sup>32</sup>と評価している。

こうした方針について、山下薫子は北山ナホの記事を取り上げ「各和音に花、昆虫、各国の子どもなどの役割を与え、聞えた和音の種類ごとに決められた遊戯を行うといった事例も見られる。何とか子供の生活にふさわしい形で音感教育を行なおうという工夫であろうが、この和音と配役には音楽的な関連性が何もなく」と指摘している<sup>33</sup>。

遊戯活動や総合保育の中での和音感教育は山下が指摘するように、音楽の指導内容という観点からみればその系統性を保持できないものである。また、幼児保育を環境の中で遊ぶことを中心として捉えるならば、総合保育の中での和音感教育は、訓練的性質が強調された活動としての批判の対象になりうるものである。しかしながら、戦前堺市の和音感教育は、初めて幼稚園保育に導入するにあたり、生活の中で音を聴く、音で遊ぶ場を総合保育の中に設定し、子どもたちが違和感なく活動できるようにと保姆たちが日々試行していた足跡であることは間違いない。

### 3.4. 1938(S13)年版と1939(S14)年版の保育実際案の比較からの考察

1938(S13)年版保育実際案と1939(S14)年版保育実際案の二つを比較しその特徴を整理する。最初に1938年版保育実際案と1939年版保育実際案の共通点としてあげられるのは以下の2点である。

一つ目の共通点は、五線譜の観念、音名位置の理解、拍節的読譜練習、和音感訓練とその応用練習に至るま

で読譜力、視唱力、合唱力といったソルフェージュ能力育成のための音楽指導を幼稚園の保育カリキュラムの中に入れ込み、それを毎日実施したという点である。

二つ目の共通点にあげられるのは、その指導方法が、1938年版から実施されていた恩物の箸やオハジキなどの教具による視覚的な工夫とともに、身体動作を伴った和音感教育やゲームの要素を含んだ遊戯活動などが積極的に取り入れられていったことである。これは、毎週実地教育を公開し、新しい遊戯を考案していったという保姆たちの実践研究の蓄積に依るところが大きい。

一方、1938年版保育実際案から1939年版保育実際案への経過の中で変化したものとしては以下の2点があげられる。

一つ目の変化は、和音感教育については指導内容、方法ともに量的に拡大したということである。またその内容は音名指導に見られたような和音構成の系統から、手遊びや遊戯活動の順序、すなわち子どもの学習活動の順序に依るものへの変化が見られたということである。その他にも佐藤の作曲した《分散唱・抽出唱練習歌》のように遊び歌の中で和音感教育ができるような教材、教具が開発されていった。

二つ目にあげられる指導内容・方法の構成の最も重要な変化は、楽曲教材を中心に行った和音感教育から、総合保育主題と関連づけた和音感教育へと移行したことであり、活動の総合化が図られたことである。「七夕祭り」や「お雛祭り」の総合保育の題目の中に和音感教育を取り入れることで、日常の保育の中で訓練的な内容が突出しないように工夫した和音感教育の方法を探っていたことが伺えた。

### 4. おわりに

本稿では、1930年代後半の堺市の第一幼稚園における和音感教育の実際とその特質について1938(S13)年版保育実際案と1939(S14)年版保育実際案との比較を通し検討した。明らかになったことは以下の2点である。

第1には、前述した通り佐藤の指導のもと堺市立幼稚園では、保育の中に毎日の和音感教育を取り入れ、実践を蓄積していった。その保姆たちの実践があったからこそ和音感教育は音楽内容の系統からではなく、子どもの学習活動に基づいて順序だてる方法を見い出すことができたといえるだろう。

第2には、それはやがて楽曲による総合的な和音感教育から総合保育主題の中に和音感教育を取り入れるものへと保育計画全体を改編させるものとなったのである。すなわち和音感教育の遊戯化、総合化を図り、それを改善の方向性としたということである。このことは、限られた保育時間の中で幼児の興味関心のもと和音感教育を実現していくために必要な要件であり、



保育と和音感教育を両立させるための折衷的着地点であったといえるだろう。

一方で、遊びを中心とした保育活動の場に訓練的性質の強い和音感教育を取り入れたことで本来の保育活動を制限、変更せざるを得ないものがあったと考えられる。それらについては別の視点から見ていくことが必要である。また、幼稚園での和音感教育の実践を支えた保母たちがどのような養成教育を受け、実践にかかわっていたのか、音楽教育上のキャリアや保育観、音楽教育観についての検討は他日を期したい。

#### 注

- 1 佐藤吉五郎(1902(M35)~1991(H3))は1922(T11)年に秋田県師範学校を卒業後、東京音楽学校の甲種師範学科に進み、1926(T15)年に卒業と同時に岡山県女子師範学校で教鞭をとった。1934(S9)年に大阪府堺市音楽指導員に転出、兼任で堺市立高等女学校教諭となった。1937(S12)年より、堺市の20校の小学校、5園の幼稚園において和音感教育を実施し、全国の注目を集めた。1943(S18)年には神奈川県久里浜の海軍対潜学校に移り、艦船水中音測定の主教官となった。戦後は1947(S22)年に神奈川県鎌倉市立大船中学校教諭となり、1953(S28)年には大船中学校を退職。その後は「総合音楽教育連盟」を設立して、神奈川県、東京都で和音感教育、ヴァイオリン、ピアノ、作曲の個人指導を実施し、学校外に活躍の場を移した(佐藤吉五郎『絶対音感による音楽教育法』私家版、1973年、磯田三津子「佐藤吉五郎」日本音楽教育学会篇『日本音楽教育学会』音楽之友社、2004年pp.398-400より)。
- 2 鈴木慎一郎「佐藤吉五郎による幼児への和音感教育実践ー岡山県女子師範学校で生まれた課題意識から」『白梅学園大学・短期大学紀要』第48号、2012年、pp.37-51。
- 3 山下薫子「4.2.音感教育の功罪」河口道朗監修『音楽教育史論叢ー音楽の思想と教育ー』第I巻、開成出版、2005年、p.217。
- 4 菅道子「昭和戦前期の大阪府堺市における和音感教育1ー音源資料SPレコード『和音感教育の実際』についてー」『和歌山大学教育学部紀要ー人文科学ー』第62号(2012年2月、pp.39-45)、菅道子「昭和戦前期の大阪府堺市における和音感教育2ー記録映画『子供と歌(耳と国防)』について(前篇)』『和歌山大学教育学部紀要ー教育科学ー』第62号(2012年2月、pp.119-126)、菅道子「昭和戦前期の大阪府堺市における和音感教育3ー記録映画『子供と歌(耳と国防)』について(後篇)』『和歌山大学教育学部紀要ー教育科学ー』第64号(2014年2月、pp.97-102)。
- 5 佐藤吉五郎「戦中の音感教育 現場からの証言」『日本の音楽教育'75』音楽之友社、1975年、p.76。
- 6 小葉田淳編集代表『堺市史統編』第2巻、堺市役所発行、1971年、pp.922-925。
- 7 佐藤吉五郎『和音を基調とする総合音楽教育法』音楽之友社、1958年、p.17。
- 8 佐藤吉五郎「音感教育四十年の回顧」『絶対音感による音楽教育法』柏苑社、1973年、p.222。
- 9 前掲(注7)佐藤『和音を基調とする総合音楽教育法』、p.18。
- 10 浅香要太郎編『堺市保育會創立拾周年記念誌』堺市役所学事課発行、1943年、p.6。
- 11 同上、浅香編、p.11。
- 12 堺市教育100年のあゆみ刊行委員会『堺市教育100年のあゆみ』(非売品)、大阪書籍、1971年、pp.134-135。
- 13 堺市保育会編「幼児の和音感教育について」(ガリ版刷り)1938年、
- 14 佐藤吉五郎『和音感教育』三喜堂、1940年、pp.220-237。
- 15 佐藤吉五郎『和音感教育 改訂版』三喜堂、1941年、pp.231-264。
- 16 1941年の出版年から推測すると1939年から1940年の実施案と考えられる。第1週4月10日とあるため10日が月曜日となる1939年と推定した。1940年4月10日は水曜日であった。
- 17 前掲(注14)佐藤『和音感教育』(1940年)pp.131-219、前掲(注15)佐藤『和音感教育 改訂版』(1941年)pp.131-225、の内容より整理。
- 18 前掲(注13)「幼児の和音感教育について」p.13。
- 19 前掲(注14)、佐藤『和音感教育』、pp.227-228。
- 20 同上、佐藤、p.229。
- 21 前掲(注5)、佐藤「戦中の音感教育 現場からの証言」、p.75。
- 22 前掲(注14)、佐藤『和音感教育』、p.235。
- 23 同上、佐藤、p.236。
- 24 前掲(注15)、佐藤『和音感教育 改訂版』、p.265。
- 25 同上、佐藤、p.266。
- 26 同上、佐藤、p.266。
- 27 北山ナホ「和音感教育の実際ー第12週七夕」『国民保育』第1巻第6号、フレーベル館、1941年6月、p.64。
- 28 前掲(注8)、佐藤「音感教育四十年の回顧」、p.222。
- 29 前掲(注15)、佐藤『和音感教育 改訂版』、pp.272-277。
- 30 同上、佐藤、pp.272-277。
- 31 前掲(注14)、佐藤『和音感教育』、p.236。
- 32 同上、佐藤、p.272。
- 33 前掲(注3)、山下「4.2.音感教育の功罪」、p.217。

## 巻末表 1938( S 13)年版と1939( S 14)年版の和音感教育保育実際案の比較

## 1938( S 13)年版の和音感教育保育実際案

## 1939( S 14)年版の和音感教育保育実際案

週	月日	過程	方法	週	月日	過程	方法
1	4/19 ～ 4/23	五線の観念の指導	・五指、恩物の箸(五本)、五線塗板に依り、五線四間、五指と五線の関係指導	1	4/10 ～ 4/15	一、五線四間の観念指導 二、音名指導 新授 ホ(E)	一、五音音名指導掛図、恩物の箸により五線四間、五指と五線の関係を授く。 二、音名ホ(E)は赤ちゃんホ(E)さんと云つてホ(E)の指に名づけ、音名掛図に連絡さる。
2	4/25 ～ 4/30	音名位置 上C新授	・五指、恩物の箸(五本)、オハジキ(1ヶ)及五線塗板を使用して音名位置指導	2	4/17 ～ 4/22	一、音名指導 新授 ト(G) 復習 ホ(E) 二、拍節的読譜練習 新授 全音符 三、和音聴音 新授 ハホト(CEG)	一、音名ト(G)は姉さんト(G)さんとト(G)の指に名づけ音名掛図に連絡させる。 二、拍節的読譜練習は五線塗板上に四小節を書き全音符のホ(E)ト(G)を書いて四拍、手を打ち読む事を数へる。 三、和音聴音はハホト(CEG)をひきハホト(CEG)を反射的に復誦させる(正しき發音指導)
3	5/2 ～ 5/7	音名位置 E新授	・五指、恩物の箸(五本)、オハジキ(2ヶ)、五線塗板に依り既習並に新の音名位置指導	3	4/24 ～ 4/29	一、音名指導 新授 ロ(H) 二、拍節的読譜練習 復習、全音符 三、和音聴音 新授 ハヘイ(CFA) 復習 ハホト(CEG)	一、音名ロ(H)は兄さんロ(H)さんとロ(H)の指に名づけ音名掛図に連絡させる。 毬入遊具貼り方(桜)遊びにより復習する。 二、拍節的読譜練習-復習 三、和音聴音 新和音ハヘイ(CFA)の新授はハホト(CEG)の時と同様聴音暗射的復誦をさせ、後二つの和音をいろいろ順序をかへてひき判別させる。 次に和音のリズムにより動作遊びを行ふ(蝶とお花)
4	5/9 ～ 5/14	音名位置 G、C新授 和音感訓練 CEG新授	・五指、恩物の箸(六本)、オハジキ(4ヶ)、五線塗板に依り既習並に新音名位置指導 ・和音(CEG)の静聴	4	5/1 ～ 5/6	一、音名指導 新授 上ニ(D) 復習 ホ(E) ト(G) ロ(H) 二、拍節的読譜練習 新授 全休止符 全音符、全休止符の組合せ 三、和音聴音 復習 ハホト(CEG) ハヘイ(CFA) 四、抽出唱(分離唱) 新授 ハホト(CEG)	一、音名上ニ(D)はお母さんニ(D)さんとニ(D)の指に名づけ音名掛図に連絡させ、五線塗板音名カードにより復習徹底をはかる。 二、拍節的読譜練習 既習音名を全音符で記し、全休止符を組合せて練習する。 三、和音聴音 兎と亀の和音リズム遊びにより興味的に行ふ。 四、抽出唱(分離唱) 和音をひき口授法によりハ(C)ホ(E)ト(G)を夫々授く。 [注意]抽出唱は和音をひいて行ふこと。
5	5/16 ～ 5/21	音名位置 F新授 和音感訓練 CEG復習	・五指、恩物の箸(長五本、短一本)、オハジキ(5ヶ)及五線塗板使用にて音名位置指導 ・和音(CEG)の静聴	5	5/8 ～ 5/13	一、音名指導 新授 上へ(F) 復習 ホ(E)ト(G) ロ(H)ニ(D) 二、拍節的読譜練習 復習 全音符、 全休止符 三、和音聴音 復習 ハホト(CEG) ハヘイ(CFA) 四、抽出唱(分離唱) 新授 ハヘイ(CFA) 復習 ハホト(CEG) 五、分散唱(分割唱) 新授 ハホト(CEG) 新授 ハヘイ(CFA)	一、音名上へ(F)は父さん(F)さんとへ(F)の指に名付け音名掛図に連絡させる。 佐藤吉五郎作詞曲の五指による音名練習唱歌により興味的に練習をなす。 二、拍節的読譜練習 先週同様復習 三、和音聴音 和音カード及び板書により記譜法を指導し先週の兎と亀の遊びを継続する。 四、抽出唱(分離唱) 口授法により先週同様に授く。 五、分散唱(分割唱) 和音をひき口授法によりハホト(CEG) トホハ(GEC)ハヘイ(CFA)イへハ(AFC)の二通りに授く。 [注意]分散唱は抽出唱と同様和音を弾いて行ふこと。
6	5/23 ～ 5/28	音名位置 A、D新授 和音感訓練 CFA新授	・五指、板書 音名カードに依り、Aの音名位置指導 ・和音(CEG、CFA)の静聴、反射的復誦	6	5/15 ～ 5/20	一、音名指導 復習 ホ(E)ト(G) ロ(H)ニ(D) へ(F) 二、拍節的読譜練習 復習 全音符、 全休止符 三、和音聴音 復習 ハホト(CEG) ハヘイ(CFA) 四、抽出唱(分離唱) 復習 ハホト(CEG) ハヘイ(CFA) 五、分散唱(分割唱) 復習 ハホト(CEG) ハヘイ(CFA)	一、音名指導 指のお家及び五指による音名練習唱歌により復習し、又音名指導掛図上に父さん、母さん、兄さん、姉さん、赤ちゃんの顔の絵の剪抜きを貼付して五指と五線とを興味的に連絡させ復習する。 二、拍節的読譜練習 先週同様既習音名の全音符と全休止符を混合して練習す。 三、和音聴音 和音カード取遊び 兎と亀の和音遊び継続 四、抽出唱(分離唱) 先週同様和音をひき口授法にて授く。 五、分散唱(分割唱) 先週同様和音をひき口授法にて授く。

7	5/30 ～ 6/4	音名位置 H新授 和音感訓練(既習和音)	・五指、板書音名カード、輪投げ等に依りHの音名位置指導 ・和音(CEG、CFA)の静聴、反射的復誦	7	5/22 ～ 5/27	一、音名指導 新授 下ハ(C)、 上ハ(C) 既習音名復習(五ツ) 二、拍節的読譜練習 復習 全音符、 全休止符 三、和音聴音 復習 ハホト(CEG) ハヘイ(CFA) 四、抽出唱(分離唱) 復習 ハホト(CEG) ハヘイ(CFA) 五、分散唱(分割唱) 復習 ハホト(CEG) ハヘイ(CFA)	一、音名指導 新授上下ハ(C)は友達ハ(C)さんとして授け、音名掛図に連結させ五指による音名練習唱歌及び書取り練習お箸おはじき遊びをなす。 二、拍節的読譜練習 先週同様 三、和音聴音 汽車遊びによる和音リズムの動作表現をさせる。 四、抽出唱(分離唱) 既習音名を全音符で板書しこれをリズム読みを経て抽出唱として取扱ふ。 五、分散唱(分割唱) 各和音に付三通りに練習す(口授法) (例)ハホト(CEG)トホハ(GEC)ハトホ(CGE)
8	6/6 ～ 6/11	音名位置 下H新授 和音感訓練 HDG新授	・五指、板書 音名カード、オハジキ、輪投げ等に依り、下Hの音名位置指導 ・和音(CEG、CFA、HDG)の静聴、反射的復誦	8	5/29 ～ 6/3	一、音名指導 新授 ヘ(F) 既習音名復習(七ツ) 二、拍節的読譜練習 復習全音符、全休止符 三、和音聴音 新授 ロント(HDG) 復習 ハホト(CEG) ハヘイ(CFA) 四、抽出唱(分離唱) 新授 ロント(HDG) 復習 ハホト(CEG) ハヘイ(CFA) 五、分散唱(分割唱) 復習 ハホト(CEG) ハヘイ(CFA)	一、音名ヘ(F)は友達ヘ(F)さんとして、五指のヘ(F)の位置を授け、音名掛図に連結させ、既習音名は五指による音名練習唱歌、五指五線塗板により練習す。 二、拍節的読譜練習 従前通り 三、和音聴音 新和音ロント(HDG)の取扱いはハホト(CEG)ハヘイ(CFG)の時と同様。カード取遊びを行ひ、又優秀児をもつて他児を誘導す。 四、抽出唱(分離唱) 新授ロント(HEG)は口授法にて行ひ、先週同様音名リズム読みを抽出唱として練習する。 五、分散唱(分割唱) 先週同様 [注意] 抽出唱も分散唱も常に和音をひいて口授法よりはじめ次第に口授を解き幼児自身で発唱する様に導く。
9	6/13 ～ 6/18	音名位置 上D新授 同書取練習 和音感訓練(既習和音)	・五線、五指、板書、輪投げ、カード等に依り音名位置指導、五線紙に依り既習音名書取をなす ・和音(CEG、CFA、HDG)の静聴、反射的復誦	9	6/5 ～ 6/10	一、音名指導 新授 イ(A) 既習音名復習(八) 二、拍節的読譜練習 復習 全音符 全休止符 三、和音聴音 復習 主三和音 四、抽出唱(分離唱) 復習 主三和音につき 五、分散唱(分割唱) 新授 ロント(HEG) 復習 ハホト(CEG) ハヘイ(CFA)	一、音名イ(A)は友達イ(A)さんとして五指のイ(A)の位置を授け、音名掛図に連結させ五指による音名練習唱歌五線塗板の書取及び読みの三方法を用いて練習す。 音名を個人的に調査す。 二、拍節的読譜練習 先週同様 三、和音聴音 (1)小さいお庭と題し和音とリズムとを結びつけた音感遊戯を行ふ(観察遊戯) (2)カード取遊び 四、抽出唱(分離唱) 従来通り既習音名の全音符をみて音名リズム読み後抽出唱をなす練習を行ふ。 五、分散唱(分割唱) 新授は口授法にて行ひ主三和音について何れも三通りに分散唱する
10	6/20 ～ 6/25	音名位置 上E、上F 和音分離分割唱 (主三和音) 和音感訓練 (既習和音)	・五指、五線、書取り、貼り方、輪投げボール入ボール投げ等に依り音名位置指導 ・和音(CEG、CFA、HDG)の静聴、反射的復誦、分割唱	10	6/12 ～ 6/17	一、音名指導 新授 下ロ(H) 既習音名復習(九ツ) 二、拍節的読譜練習 復習 全音符 全休止符 三、和音聴音 復習 主三和音 四、抽出唱(分離唱) 復習 主三和音 五、分散唱(分割唱) 復習 主三和音	一、音名指導 新音名下ロ(H)は友達ロ(H)さんとして五指の位置を授け、音名掛図に連結させる。 二、拍節的読譜練習 先週同様 三、和音聴音 小さいお庭の和音リズム遊び継続 四、抽出唱(分離唱) 先週同様に既習音名の全音符を板書し視唱させる。 五、分散唱(分割唱) 先週同様
11	6/27 ～ 7/2	既習音名復習 和音感訓練(GHD)新授 分離分割唱(主三和音)	・五線、板書、五線塗板 音名カードに依り既習音名位置の復習をなす ・和音の静聴、反射的復誦、分離分割唱	11	6/19 ～ 6/24	一、音名指導 新授 ニ(D) 既習音名復習(十) 二、拍節的読譜練習 復習 全音符 全休止符 三、和音聴音 復習 主三和音 四、抽出唱(分離唱) 復習 主三和音 五、分散唱(分割唱) 復習 主三和音	一、音名指導 新音名ニ(D)は友達ニ(D)さんとして五指のニ(D)の位置に名づけ、音名掛図に連結させる指のお家遊びと音名練習唱歌にて五指による反射的練習及書取りを行ふ。 二、拍節的読譜練習 前週同様 三、和音聴音 毯さがし遊びによる興味的訓練 四、抽出唱(分離唱) 前週同様 五、分散唱(分割唱) 前週同様



12	7/4 ～ 7/9	既習音名復習 和音感訓練(GHDF) 新授 分離分割唱(主三和音)	・音名復習方法は前週に同じ ・和音の静聴(GHDF) ・反射的復誦 ・分離分割唱	12	6/26 ～ 7/1	一、音名指導 新授 上ホ(E) 既習音名復習(十一) 二、拍節的読譜練習 新授 二分音符 二分休止符 復習 全音符、 全休止符 三、和音聴音 復習 主三和音 四、抽出唱(分離唱) 復習 主三和音 五、分散唱(分割唱)	◎総合保育主題を七夕祭として他の保育項目との連絡に留意しつ、総合的に取扱ひ楽しく基礎訓練を行ふ。 ▲音名指導 新音名上ホ(E)は友達ホ(E)さんとして、指の位置に名づけ音名掛図に連絡させる。五指と五線塗板の書取にて反射的練習をなす、星の貼り方遊びを短冊にし七夕祭のお飾りとする。 ▲拍節的読譜練習 次の如く全音符と二分音符とを別々に練習しその関係を知らせる。 図 省略 ▲和音聴音 七夕祭の和音リズム遊びを行ひ興味的に訓練をなす。 ▲抽出唱(分離唱) 前週同様 ▲分散唱(分割唱) 前週同様
13	7/11 ～ 7/16	既習音名 復習 和音感訓練 復習 分離分割唱 拍節的読譜練習 (全音符、全休止符)	・音名復習方法は前週に同じ新しく書取練習を数名宛集めてする ・和音静聴(五つ)、分離分割唱、拍節的読譜練習は全音符より始める	13	7/3 ～ 7/8	一、音名指導 新授 上ト(G) 既習音名復習(十二) 二、拍節的読譜練習 復習(1)二分音符 二分休止符 (2)全音符、 全休止符 三、和音聴音 新授 ヘイハ(FAC) 復習 主三和音 四、抽出唱(分離唱) 復習 主三和音 五、分散唱(分割唱) 新授 ヘイハ(FAC) 復習 主三和音	◎先週同様総合保育主題を七夕祭として各保育項目との連絡に留意しつ、総合的に取扱ひ楽しく基礎訓練を行ふ。 ▲音名指導 新音名上ト(G)は友達ト(G)さんとして、五指の位置を授け、音名掛図に連絡させる。音名練習唱歌及び指のお家の歌、五線塗板との間に反射的に云える様復習する。 ▲拍節的読譜練習 前週同様 ▲和音聴音 前週同様七夕祭の遊び継続 ▲抽出唱(分離唱) 新和音ヘイハ(FAC)については口授法指導をなし、先週同様音名にリズムをつけて板書しリズム読みを経て抽出唱として扱ふ。 ▲分散唱(分割唱) 新和音ヘイハ(FAC)を口授法にて新授し既習和音につき復習す。
14	7/18 ～ 7/20	既習音名復習 和音感訓練 FAC,EGC新授 分離分割唱 拍節的読譜練習	方法は前週に同じ	14	7/10 ～ 7/15	一、音名指導 復習 下ロ(H)より 上ト (G)まで(十三) 二、拍節的読譜練習 復習(1)二分音符 二分休止符 (2)全音符、 全休止符 三、和音聴音 復習 (一～四) 四、抽出唱(分離唱) 復習 和音(四) 五、分散唱(分割唱) 復習 和音(四)	◎夏の海を総合保育主題とし海辺の遊びを題材として各保育項目との連絡に留意しながら面白く音名、和音聴音、抽出唱、分散唱、リズム訓練などの基礎的訓練を総合的に取扱ふ。 ▲分散唱は各和音毎に六通りに分散する事を授く。即ち次の如く (例) ハホト(CEG)の和音について ハホト(CEG)ハトホ(CG) ホハト(EGC)ホトハ(EGC) トホハ(GEC)トハホ(GCE) 他の和音についても同様
15	9/5 ～ 9/10	一、既習音名総復習 二、既習和音感訓練 復習(1～7)	・五指及び五線塗板ボール入れ遊具に依る音名 反射的練習	15	7/17 ～ 7/20	一、音名指導 復習(十三) 二、拍節的読譜練習 復習(1)二分音符 二分休止符 (2)全音符 全休止符 三、和音聴音 復習 (一～四) 四、抽出唱(分離唱) 復習 和音(四) 五、分散唱(分割唱) 復習 和音(四)	◎夏の自然を総合保育主題とし蟬を題材として各保育項目との連絡に留意しながら音名、和音聴音、抽出唱、分散唱、リズム訓練などの基礎的訓練を面白く総合的に取扱ふ。
16	9/12 ～ 9/17	一、既習音名総復習 二、拍節的読譜練習 復習(全音符、 全休止符) 新授(二分音符) 三、和音感訓練 復習(1～7) 新授(ACF) 書取練習(1～3) 四、分離分割唱 主三和音並に (FAC・EGC)5つ	一、音名練習 五指及板書の音名を反射的に云はしむ 二、和音感訓練 ・一番より八番迄聴音判別反射的に云はしむ(順序不同) ・個人的に或いは二人を競争的に訓練する場合は幼児達全體會で採点にあたらせた ・音あて遊びの歌を用ひ興味的にした ・優秀児をもつて他児を誘導した ・和音の記譜練習に於ては薬半紙に三十ミリメートルの五線謄写したもの及び鉛筆を與へて書取をさせ尚和音カード板書等により指導した	16	9/1 ～ 9/9	一、音名指導 復習(十三) 二、拍節的読譜練習 復習(1)二分音符 二分休止符 (2)全音符 全休止符 三、和音聴音 新授 トロニ(GHD) 復習 (四) 四、抽出唱(分離唱) 新授 トロニ(GHD) 復習 和音(四) 五、分散唱(分割唱) 既習和音(四)	◎休暇明けの事故先へ進む事をさけ、既習事項を復習し個人的記憶状況を観察し適宜指導をなす。 ▲和音聴音 和音にリズムを加へ和音感体操を試みる。 ▲簡易な新曲を板書し、音名練習ーリズム読譜練習し、和音聴音ー抽出唱を経て視唱することにより基礎的既習事項を総合的に取扱ふ。 [注意] 新授和音トロニ(GHD)のト(G)は幼児の歌唱範囲外なるを以て、抽出唱、分散唱練習を省く。

17	9/19 ～ 9/24	一、既習音名総復習 二、拍節的読譜練習 復習(全音符、 全休止符、 二分音符) 新授 二分休止符 三、和音感訓練 復習(1～8) 新授(GCE) 書取練習(1～5) 四、分離分割唱	一、音名練習 先週と同様 二、拍節的読譜練習 全音符と全休止符を組合せたものと二分音符と二分休止符を組合せたものと分けて別々に練習を行つた 三、和音感訓練 大体八番より一番の方向へと(但し順序不同)弾き反射的に言わせしむ之は新しい和音を出来るだけ回数多く聴かせることと関係的にCEG、CFAと覚えさせぬ為の心からである 四、分離分割唱法 先週と同様	17	9/1 ～ 9/9	同16週	同16週
18	9/26 ～ 10/1	一、既習音名総復習 二、拍節的読譜練習 全音符二分音符の組合せ 三、和音感訓練 復習(1～9) 書取練習(1～7) 四、分離分割唱法 復習	一、音名練習 先週と同様反射的にと誘導する 二、拍節的読譜練習 全音符の読み方をCエエエという風に改む 三、和音感訓練 興味的に訓練すべく和音カード取遊び輪取り遊び等の和音感に基く動作遊びを試みる ▲和音感記譜練習は示範して模倣書取る事より次第に和音をきいて直ぐ書き取る練習徐々に移しつつある 四、分離分割唱 CEGの和音を六通りに分割することを教える、即ち次ぎの如く CEG・CGE・ECG・EGC・GCE・CFA・HDGについても同様であるが之は幼児達にとつて未だ困難である	18	9/11 ～ 9/16	一、音名指導 復習(十三) 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音聴音 復習 (一～四) 四、抽出唱(分離唱) 復習 和音(五) 五、分散唱(分割唱) 復習 和音(四)	◎自然の恵みと植物との関係を観察しつゝ之を音感遊びとして行ふことによつて面白く基礎訓練を総合的に取扱ふ。 ▲既習唱歌の伴奏鑑賞により和音聴音を行ふ。指導者はピアノをひき、一人の幼児にタクトを持たせて和音表の前へ立たせ、全児に小声で唱歌を歌はせて和音の進行をあてさせる。
19	10/3 ～ 10/8	一、音名復習 二、拍節的読譜練習 復習(全音符、 全休止符、 二分音符、 二分休止符) 以上の組合せ 三、和音感訓練 復習(1～9) 書取練習(1～3) 四、和音分離分割唱 復習	一、音名練習 先週と同様、反射的にと導く 二、拍節的読譜練習 全音符全休止符二分音符二分休止符を種々に組合せて板書し読譜させる 三、和音感訓練 和音感のつき難い幼児の特別指導に力を注ぐこととし専ら復習を行ふ ▲書取練習は書けない幼児と書ける幼児の開きを少なくする意味で再び一番から繰返し主三和音全部を全幼児に記憶させるやうと努める(五線紙、鉛筆和音カード(示範用大型使用)使用) 四、和音分離分割唱 先週と同様な方法に依る	19	9/18 ～ 9/23	一、音名指導 復習 (十三) 二、拍節的読譜練習 全音符、全休止符、 二分音符、 二分休止符の混合 三、和音聴音 新授 トロニへ(GHDF) 復習 和音(五) 四、抽出唱(分離唱) 新授 トロニへ(GHDF) 復習 和音(五) 五、分散唱(分割唱) 復習 和音(四)	◎平易な歌曲を板書し音名練習、拍節的読譜練習、和音聴音、抽出唱を経て読譜視唱へ誘導することにより基礎諸訓練を構成的総合的に取扱ふことゝす。 ▲和音聴音 子供の世界で楽しまれてゐる猫買遊びを和音リゾム遊びとして行ふ中に興味的に基礎諸訓練を取扱ふ。 [注意] 新授和音トロニへ(GHDF)のト(G)は幼児の歌唱範囲外に、あるを以て抽出唱、分散唱練習を省く。
20	10/10 ～ 10/15	一、音名復習 二、拍節的読譜練習 復習(二分音符、 二分休止符) 以上の組合せ 三、和音感訓練 復習(1～9) 記譜(1～5) 四、和音分離分割唱 前に同じ 主三和音並にFAC EGCについて	一、音名練習 先週同様 五指及塗板に記した音名を反射的に云はしむ 二、拍節的読譜練習 二分音符と二分休止符を組合せた新譜を毎時読譜せしむ 三、和音感訓練 既習和音(1～9)迄を聴音復誦反復練習させる ▲書取りは聴音一斉復誦して之を書取ること及熟つて各児の音感を書取ることの二通りの方法を毎時行ふ、和音カード(示範用)使用 四、和音分離分割唱 簡単なリゾムの音符を五線塗板に書いて分離分割唱の練習を行ふ	20	9/25 ～ 9/30	一、音名指導 復習 (十三) 二、拍節的読譜練習 全音符、全休止符、 二分音符、 二分休止符の混合 三、和音聴音 新授 ホトハ(EGC) 復習 和音(六) 四、抽出唱(分離唱) 新授 ホトハ(EGC) 復習 和音(六) 五、分散唱(分割唱) 新授 ホトハ(EGC) 復習 和音(四)	◎総合保育主題をお月見とし、月夜の兎を題材にして他項目との連絡に留意しつつ、総合的に基礎訓練を面白く取扱ふ。 ▲簡易なる新曲を板書し音名リゾム読、和音聴音抽出唱を経て視唱に誘導することに依り基礎的諸訓練を構成的総合的に取扱ふ。 ▲抽出唱、分散唱に於けるホトハ(EGC)の新授取扱ひは従来通り口授法にて行ふ。
21	10/17 ～ 10/22	一、音名練習 二、拍節的読譜練習 復習(全音符、 全休止符、 二分音符、 二分休止符) 新授 附点二分音符 三、和音感訓練 新授 DGH 復習(1～9) 書取(1～7) 四、和音分離分割唱 全音符の音名を板書し之を視唱せしめた	一、音名練習 先週と同じ 二、拍節的読譜練習 イ、二分音符を主とし之に全音符を配した新譜 ロ、附点二分音符の連続 三、和音感訓練 新和音DGHの與へ方は前に同様、但し書取り方は未だ授けず、既習和音の聴音、復誦、記譜を先週同様反復練習する 四、和音分離分割唱 拍節的読譜練習に用ひた譜を視唱せしめることとした	21	10/2 ～ 10/7	一、音名指導 復習(十三) 二、拍節的読譜練習 新授 四分音符 四分休止符 復習 二分音符 二分休止符 三、和音聴音 復習 和音(七) 四、抽出唱(分離唱) 復習 和音(七) 五、分散唱(分割唱) 復習 和音(五)	◎先週の月夜の兎遊びを継続し、楽しく基礎諸訓練を総合的に取扱ふ。 ▲簡易なる新曲を板書し之を音名、リゾム読和音聴音、抽出唱を経て視唱に導くことに依り基礎諸訓練を構成的総合的に取扱ふ。 新曲 (1)縄跳び (2)兵隊ごっこ (題材集より)

堺市立幼稚園の和音感教育を取り入れた保育実践

22	10/24 ～ 10/29	一、音名復習 二、拍節的読譜練習 新授(四分音符、 四分休止符) 三、和音感訓練 復習(1～10) 書取(1～8) 四、和音分離分割唱 二分音符及四分音符の 視唱	今週より平易なハ調の歌曲を選んで之を 板書して音名練習－拍節的読譜練習－和 音分離発唱に依る読譜の唱謡へと総合的 に取扱ふこととした、歌詞は口授法に依 る、新授歌曲は左の如きもの (1)縄とび ハ調四分の四拍子 四分音符及び四分休止符による構成 八小節の平易なるもの (2)ゆふがた ハ調四分の四拍子 四分音符四分休止符二分音符二分休 止符にてなれる八小節の平易なるもの 三、和音感訓練 既習和音の聴音、反射的復誦及書取練 習を行ふ、又和音のリズム遊びをなす	22	10/9 ～ 10/14	一、音名指導 復習(十三) 二、拍節的読譜練習 新授 附点二分音符 復習 二分音符 四分音符 四分休止符 三、和音聴音 新授 ニトロ(DGH) 既習 和音(七) 四、抽出唱(分離唱) 新授 ニトロ(DGH) 復習 和音(七) 五、分散唱(分割唱) 新授 ニトロ(DGH) 復習 和音(五)	◎防空演習を総合保育主題として取入 れ、防空演習遊びを題材として、楽し く基礎諸訓練を総合的に取扱ふ。  ▲簡易なる新曲を板書し之を音名リズム 読み和音聴音、抽出唱を経て視唱へ誘 導することに依り基礎的諸訓練を構成 的総合的に取扱ふ。 新曲 宿がへ(題材集より) ▲主三和音の分散唱表を掛図にして視唱 させる ▲和音の書取練習
23	10/31 ～ 11/5	一、音名復習 二、拍節的読譜練習 三、和音感訓練 復習(1～10) 四、和音分離分割唱 復習 (主三和音及FAC・ EGC)	簡易なる新譜を板書し之を音名読み、音 名リズム読み、和音の分離分割唱に依る 音符の視唱へと構成的総合的に取扱ふ。 新曲は次の如きもの (1)歌のけいこ(佐藤吉五郎作曲) 四分音符の連続 八小節の平易なるもの (2)宿がへ 二分音符、四分音符、四分休止符に てなる八小節の平易なるもの ▲和音感訓練 ○新授曲や既習唱歌を和音で奏し之を 聴音判別させる、鑑賞的取扱ひをも 試みる、即ち イ、和音表を作り塗板に貼付す ロ、指導者は既習唱歌を和音で奏し 小声で唱歌を歌はしむ ハ、一人の幼児にタクトを與へて和 音表の前に立たせ、和音の進行を 和音表中より見出して指摘せしめ る ○和音のリズム遊び…動物遊び ○和音の書取り練習	23	10/16 ～ 10/21	一、音名指導 復習(十三) 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音聴音 新授 ヘトロ(FGH) 復習 和音(八) 四、抽出唱(分離唱) 新授 ヘトロ(FGH) 復習 和音(八) 五、分散唱(分割唱) 新授 ヘトロ(FGH) 復習 和音(六)	◎先週の防空演習遊びを継続し他項目と の連絡に留意しつつ、楽しく遊びながら 基礎訓練を総合的に取扱ふこととする。 ▲簡易なる新曲を板書し之を音名リズム 読み－和音聴音－抽出唱を経て視唱へ 誘導することにより基礎諸訓練を構成 的総合的に取扱ふ。 新曲 二つ
24	11/7 ～ 11/12	一、音名復習 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音感訓練 復習(1～10) 四、和音分離分割唱 復習	簡易なる新譜を板書し、之が音名読み、 音名リズム読み、和音分離分割唱に依る 音符の視唱へと基本的既習事項を構成的 総合的に取扱ふ 新曲 (1)夕焼小焼 始めの八小節を取扱ふ、四分音符、 附点二分音符、四分休止符にてなる もの、後半は口授法にて歌詞を唱謡 せしむ (2)その他即興曲二、三、二分音符、四 分音符、二分休止符、四分休止符の 混合四小節又は八小節のもの	24	10/23 ～ 10/28	一、音名指導 復習(十三) 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音聴音 新授 トハホ(GCE) 復習 和音(九) 四、抽出唱(分離唱) 新授 トハホ(GCE) 復習 和音(九) 五、分散唱(分割唱) 復習 和音(七)	◎保育主題を収穫の秋とし収穫遊びを題 材として、各保育項目との連絡に留意 しながら楽しく基礎訓練を総合的に取 扱ふ。 ▲音名練習一指のお家遊びの応用唱歌及 び五指による音名唱歌による。 ▲簡易なる新曲を板書し之を音名リズム 読み、和音聴音抽出唱を経て視唱へ誘 導する事により基礎的諸訓練を構成的 総合的に取扱ふ。 新曲 明治節(題材集より) (歌詞は口授法にて授く) [注意] 新和音トハホ(GCE)のト(G) は幼児の歌唱範囲外なるを以 て、抽出唱分散唱練習を省く。
25	11/14 ～ 11/19	一、音名復習 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音感訓練 復習(1～10) 四、和音分離分割唱 復習 (主三和音FAC・EGC)	簡易なる新譜を板書し之が音名練習、拍 節的読譜練習、和音感訓練、和音分離分 割唱へと総合的に練習し、結局視唱に到 達すべく取扱ふ 新授曲 (1)お洗濯 一小節より八小節迄を第一時に、後 半を第二時に取扱ふ。 四分音符、二分音符、附点二分音符、 四分休止符にてなるもの (2)即興的小曲一二、八小節程度の平易 なもの	25	10/30 ～ 11/4	一、音名指導 復習(十三) 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音聴音 復習 和音(十) 四、抽出唱(分離唱) 復習 和音(十) 五、分散唱(分割唱) 復習 和音(七)	◎先週よりの収穫遊びを継続し、楽しく 基礎諸訓練を総合的に取扱ふ。 ▲簡易なる新曲を板書し之を音名リズム 読み和音聴音抽出唱を経て視唱へ誘導 する事により基礎諸訓練を構成的総合 的に取扱ふ。 新曲 二つ
26	11/21 ～ 11/26	一、音名復習 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音感訓練 復習(1～10) 四、和音分離分割唱 復習 (主三和音FAC・EGC)	先週同様新譜を板書し之を音名読み、拍 節的読譜和音分離分割唱一視唱へと総合 的に取扱ふことに依り既習基本的事項を 総合的に練習す 新授曲 (1)四分音符、二分音符、四分休止符に てなる十二小節の平易なもの (2)二分音符、四分音符、二分休止符、 四分休止符よりなる八小節の簡易な もの	26	11/6 ～ 11/11	一、音名指導 復習(十三) 二、拍節的読譜練習 復 習 三、和音聴音 復習 和音(十) 四、抽出唱(分離唱) 復習 和音(十) 五、分散唱(分割唱) 復習 和音(七)	◎引続き他の保育項目との連絡に留意し つつ、収穫遊びを継続し、楽しく基礎諸 訓練を総合的に取扱ふ。 ▲簡易なる新曲を板書し之を音名リズム み、和音聴音、抽出唱を経て視唱させ る事により基礎諸訓練を構成的総合的 に取扱ふ。 新曲 一つ



27	11/28 ～ 12/3	一、音名復習 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音感訓練 復習(1～10) 四、和音分離分割唱 復習 五、単独和音三声唱 CEGにつき CFAにつき HDGにつき	▲先週の如く新曲の音名読み、音名リズム読み、和音分離分割唱－視唱へと導くことに依り既習事項を総合的に復習する  ・新曲一つ 四分音符、二分音符、附點二分音符、四分休止符混合の八小節のもの  ・和音感訓練 専ら復習に努む  ▲単独和音三声唱 組分け及声音部を指定す。但し之は絶えず組分け指定変化をなすこと 図 省略	27	11/13 ～ 11/18	一、音名指導 復習(十三) 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音聴音 復習 和音(十三) 四、抽出唱(分離唱) 復習 和音(十) 五、分散唱(分割唱) 復習 和音(七) 六、単音抽出 新授 ト(G) 七、自由發唱 新授 ト(G)	◎引き続き収穫遊びを継続し他の保育項目との連絡に留意しつつ、基礎諸訓練を楽しく総合的に取扱ふ。 ▲簡易なる新曲を板書し之を音名読み、音名リズム読み、和音聴音、抽出唱を経て視唱せしめる事により基礎諸訓練を構成的総合的に取扱ふ。 新曲 二つ ▲単音抽出 (1)既習和音ハホト(CEG) ロニト(HDG) ハホト(CEG)ロニト(HDG)ホトハ(EGC)と和音をひき、反射的復誦後次に単音ト(G)をひきたづねる。 (2)萬一出来ない場合は之が分散唱を行ひ後単音ト(G)をひき答へさせる。 (3)之でも出来なければト(G)と教へる。 ▲自由發唱 (イ)ハホト(CEG)ロニト(HDG) ハホト(CEG) ロニト(HDG)ホトハ(EGC)と和音をひき、之を反射的に復唱させて後ト(G)音を想起して歌はせる。 (ロ)萬一出来ない時は之を分散唱として扱ひ、後ト(G)を發唱させる。 (ハ)之で出来なければ歌つてきかせ真似させる。 〔註〕単音抽出及自由發唱は和音聴音抽出唱分散唱が正確になつた頃より行ふべきもので絶対音として記憶に残してゆくために行ふものである。
28	12/5 ～ 12/10	一、音名復習 二、拍節的読譜練習 新授八分音符他 復習 三、和音感訓練 新授 HDF 復習(1～10) 四、和音分離分割唱 復習 五、単独和音三声唱 復習 (主三和音につき)	先週同様、新譜を板書して之を音名読み、リズム読み、和音感訓練、分離分割唱へと結びつけて視唱せしめることに依り既習事項を総合的に練習する  新曲「進軍」 第一小節より第八小節迄を取扱ふ。 四分音符、八分音符、二分音符、附點に於けるもの(後半は口授法にて歌謡指導) ▲和音感訓練 聴音反射的復誦及書取りを行ふ ▲単独和音三声唱 先週同様に行ふ	28	11/20 ～ 11/25	一、音名指導 復習(十三) 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音聴音 復習 和音(十) 四、抽出唱(分離唱) 復習 和音(十) 五、分散唱(分割唱) 復習 和音(七) 六、単音抽出 復習 ト(G) 七、自由發唱 復習 ト(G)	◎引き続き収穫遊びを継続し他項目との連絡に留意しつつ、楽しく基礎訓練を総合的に取扱ふ。 ▲簡易なる新曲を板書し之を音名読み、音名リズム読み、和音聴音抽出唱を経て視唱させる事により基礎訓練を構成的総合的に練習す。 新曲 一つ 夕焼小焼(題材集より)
29	12/12 ～ 12/17	一、音名復習 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音感訓練 復習(1～11) 四、和音分離分割唱 復習(六つの和音) 五、連続和音三声唱 (主三和音について)	▲新譜の音名読み、リズム読み、和音感訓練、和音分離分割唱－視唱へと既習事項を総合的に取扱ふ。  新曲「鬼さん」 四分音符、四分休止符にてなる八小節の平易なもの  ▲連続和音三声唱…単独和音三声唱が上手なので試みに連続和音三声唱を行ふ 図 省略 塗板に連続和音を記し視唱せしめた 尚上声中声下声の別をはつきり示す為、色チョークで赤、白、緑といふ風に記した	29	11/27 ～ 12/2	一、音名指導 復習(十三) 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音聴音 復習 和音(十) 四、抽出唱(分離唱) 復習 和音(七) 五、分散唱(分割唱) 復習 和音(七) 六、単音抽出 新授 ハ(C) 復習 ト(G) 七、自由發唱 単音抽出に同じ	◎秋の自然観察を中心として、総合保育を行ふこと、し木の葉を題材にして各保育項目との連絡に留意しつつ、楽しく遊ぶ裡に基礎的諸訓練を総合的に取扱ふ。 ▲簡易なる新曲を板書し、之を音名読み、音名リズム読み、和音聴音、抽出唱を経て視唱することにより基礎訓練を総合的に練習す。 新曲 木の葉(題材集より) ▲分散唱 分散唱表を見て主三和音につき輪唱として取扱ふ。
30	12/19 ～ 12/24	一、音名復習 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音感訓練 復習(1～11) 四、和音分離分割唱 復習 (六ヶの和音につき)	今週は保育の都合上纏つた音感教育の時間がなく時に和音聴音反射的復誦のみを、時に分離分割唱のみを、又時に五指、五線塗板上に於ける音名練習のみをと部分的に行つた	30	12/4 ～ 12/9	一、音名指導 復習(十三) 二、拍節的読譜練習 新授 八分音符 復習 三、和音聴音 復習 和音(十) 四、抽出唱(分離唱) 復習 和音(十) 五、分散唱(分割唱) 復習 和音(七) 六、単音抽出 復習(二) 七、自由發唱 復習(二)	◎先週の木々の遊びを継続し、楽しく総合的に基礎諸訓練を取扱ふ。 ▲新曲の読譜視唱を新授予定の八分音符の連続の曲によつて行ひ、之が音名読み音名リズム読み、抽出唱を経て歌ふ事により基礎的既習事項を総合的に取扱ふ。 ▲分散唱 先週同様分散唱表を見て、主三和音につき輪唱を行ふ。

31	1/9 ～ 1/14	一、音名復習 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音感訓練 新授 HDFS 復習(1～11) 四、和音分離分割唱 復習 (主三和音FAC・EGC)	▲新曲「一月一日」に依る音名練習、拍節的読譜練習、和音感訓練、和音分離分割唱－読譜の視唱へと総合的に取扱ふ ▲和音感訓練 和音のリズムに依る「鬼ごっこ遊び」にて新和音「HDFS」の把握及既習和音の聴音練習に努む	31	12/11 ～ 12/16	一、音名指導 復習(十三) 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音聴音 復習(十) 四、抽出唱(分離唱) 復習(十) 五、分散唱(分割唱) 復習(七) 六、単音抽出 新授 ホ(E) 復習(二) 七、自由発唱 単音抽出に同じ	◎総合保育主題をお正月を迎える喜びとし、お正月遊びを題材として他項目との連絡に留意しつつ、楽しく遊ぶ裡に基礎的既習事項を総合的に取扱ふ。 ▲新しい歌曲を授けるに當り歌曲の中の一部を板書し之を音名読み、音名リズム読み、抽出唱を経て視唱させる事に依り基礎諸訓練を総合的に取扱ふ。 (読譜視唱以外の部分及び歌詞は口授法による) 新曲 (1)お正月 (2)てまりとたこ (題材集より)
32	1/16 ～ 1/21	一、音名復習 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音感訓練 復習(1～12) 四、和音分離分割唱 復習 (主三和音FAC・EGC)	・音名練習…唱歌「指のお家」に依る興味的取扱ひ及び五指の反射的練習、書取練習等に依り個人的記憶状態を調査す ・和音感訓練 「鬼ごっこ遊び」に依る	32	12/18 ～ 12/23	一、音名指導 復習(十三) 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音聴音 復習(十) 四、抽出唱(分離唱) 復習(十) 五、分散唱(分割唱) 復習(七) 六、単音抽出 復習(三) 七、自由発唱 復習(三)	◎先週のお正月遊びを継続し他項目との連絡に留意しつつ、楽しく遊ぶ裡に基礎的諸訓練を総合的に練習す。 ▲分散唱の応用による輪唱を取扱ふ。 (主三和音ヘイハ(FAC)ホトハ(EGC)につき)
33	1/23 ～ 1/28	一、音名復習 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音感訓練 復習(1～12) 四、和音分離分割唱 復習	▲新授曲「豆撒き」に依る音名練習、拍節的読譜練習、和音感訓練、和音分離分割唱－音符の視唱をなし基本的既習事項を構成的総合的に練習す 「豆撒き」 四分の四拍子 四分音符、四分休止符、二分音符の混合 十二小節 ▲和音感訓練 二月の行事、節分に因んだ豆撒きの新授唱歌に対し、和音感訓練の遊戯として和音のリズムに依る豆撒き遊びを行ふ、併せて書取り練習をも行ふ	33	1/8 ～ 1/13	一、音名指導 復習(十三) 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音聴音 復習(十) 四、抽出唱(分離唱) 復習(十) 五、分散唱(分割唱) 復習(七) 六、単音抽出 復習(三) 七、自由発唱 復習(三) 八、単独和音三声唱 新授 ハホト(CEG) ハヘイ(CFA)	◎先週同様引つゞきお正月遊びを継続し、他項目との連絡に留意しつつ、楽しく遊ぶ裡に基礎的諸訓練を総合的に取扱ふ。 ▲単独三和音三声唱組分けをして声音部を指定し、各和音について次の例の如く、発唱させる、但しこの声音部は常に変更し一定せず。 図 省略
34	1/30 ～ 2/4	一、音名復習 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音感訓練 復習(1～12) 四、和音分離分割唱 復習 (主三和音FAC・EGC)	特に音名書取りと和音聴音判別状況を個人的に調査す	34	1/15 ～ 1/20	一、音名指導 復習(十三) 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音聴音 復習(十) 四、抽出唱(分離唱) 復習(十) 五、分散唱(分割唱) 復習(七) 六、単音抽出 復習(三) 七、自由発唱 復習(三) 八、単独和音三声唱(三)	◎動物の鳴声遊びにより興味的に和音感あそびを行ふ。 ▲単独三和音三声唱は先週同様
35	2/6 ～ 2/11	一、音名復習 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音感訓練 復習(1～12) 四、和音分離分割唱 復習	新授唱歌「雪やこんこん」に依り音名練習、拍節的読譜練習、和音感訓練、和音分離分割唱－音符の視唱へと誘導し、既習練習を総合的に取扱ふ	35	1/22 ～ 1/27	一、音名指導 復習 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音聴音 復習(十) 四、抽出唱(分離唱) 復習(十) 五、分散唱(分割唱) 復習(七) 六、単音抽出 復習(三) 七、自由発唱 復習(三) 八、単独和音三声唱 復習(三)	◎引つゞき動物の鳴声遊びの継続により興味的和音感遊びをなす。 ▲簡易なる新曲を板書し、之を和音読み音名リズム読み和音聴音抽出唱を経て視唱する事により基礎諸訓練を総合的に取扱ふ。 新曲

36	2 / 13 ～ 2 / 18	一、音名復習 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音感訓練 新授 DFGH 復習 (1～12) 四、和音分離分割唱 復習 (主三和音FAC・EGC)	特筆すべき事なし (三週間に互り保育主題「雛祭り」の系統的保育のため和音感教育を行ふ時間が甚だしく、新和音DFGHを新授したのみにて復習に重きをおき徹底を計ることとした)	36	1 / 29 ～ 2 / 3	一、音名指導 復習(十三) 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音聴音 復習(十) 四、抽出唱(分離唱) 復習(十) 五、分散唱(分割唱) 復習(七) 六、単音抽出 復習(三) 七、自由発唱 復習(三) 八、カデンツ三声唱 新授	◎総合保育主題を節分とし、節分遊びを題材して他項目との連絡に留意しながら楽しく総合的に基礎的諸訓練を取扱ふ。 ▲歌曲豆撒きを新授するに当り、その中の一部分を板書し音名読み、音名リズム読み、和音聴音抽出唱を経て視唱せしめる事により、和音感の基礎訓練を総合的に取扱ふ。 (読譜視唱以外の處及歌詞は口授法により授く) 図 省略
37	2 / 20 ～ 2 / 25	同36週	同36週	37	2 / 5 ～ 2 / 10	一、音名指導 復習(十三) 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音聴音 復習(十) 四、抽出唱(分離唱) 復習(十) 五、分散唱(分割唱) 復習(七) 六、単音抽出 復習(三) 七、自由発唱 復習(三) 八、カデンツ三声唱	◎先週よりの節分遊びを継続し、楽しく総合的に基礎訓練を取扱ふ。 ▲次の項目について個人的に調査を行ふ。 (1)音名 下ロ(H)より上ト(G)まで13音名 (2)和音聴音 (十) (3)抽出唱 主三和音につき (4)分散唱 主三和音六通りにつき (5)重音合唱 基礎カデンツにつき (6)読譜視唱 簡易なもの四小節 (7)絶対音感 単音ト(G)ホ(E)ハ(C)
38	2 / 27 ～ 3 / 6	同36週	同36週	38	2 / 12 ～ 2 / 17	一、音名指導 復習(十三) 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音聴音 復習(十) 四、抽出唱(分離唱) 復習(十) 五、分散唱(分割唱) 復習(七) 六、単音抽出 復習(三) 七、自由発唱 復習(三) 八、重音合唱 復習 基礎カデンツにつき	◎春の小さなお庭を題材として観察による和音感遊びを行ひ楽しく遊ぶ裡に基礎的諸訓練を総合的に取扱ふ。
39	3 / 8 ～ 3 / 13	一、音名復習 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音感訓練 復習 (1～13) 四、和音分離分割唱 復習 (六和音について)	新授唱歌を取扱ふに当たり新譜の音名練習、拍節的読譜、和音感訓練、和音分離分割唱を構成的且総合的に練習し、視唱に導いた 新授曲 (1)たんぽぽ兵隊 二分音符、四分音符、 附点二分音符、 四分休止符混合十六小節 (2)お花のトンネル 二分音符、四分音符、 附点二分音符の混合、八小節 ▲和音感訓練 和音感体操、春の観察遊戯に依り興味的訓練をなす	39	2 / 19 ～ 2 / 24	一、音名指導 復習(十三) 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音聴音 復習(十) 四、抽出唱(分離唱) 復習(十) 五、分散唱(分割唱) 復習(七) 六、単音抽出 復習(三) 七、自由発唱 復習(三) 八、重音合唱 復習 基礎カデンツ三声唱	◎春の小さなお庭の遊びを継続し楽しく遊ぶ裡に基礎諸訓練を総合的に取扱ふ。 ▲新曲の読譜視唱により音名読み音名リズム読み、抽出唱をへて視唱することにより基礎諸訓練を総合的に取扱ふ。 新曲 (1)小さいお庭 (2)兵隊ごっこ(題材集より)
40	3 / 15 ～ 3 / 20	一、音名復習 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音感訓練 復習 (1～13) 四、和音分離分割唱 復習 (六和音)	新授唱歌の新譜に依る音名練習、拍節的読譜練習和音感訓練、和音分離分割唱一視唱へと総合的構成的に既習基本事項を練習する 新授曲 (1)修了の歌 二分音符、四分音符、四分休止符、 附点二分音符にてなる十四小節のもの (2)小さいお庭 八小節迄を取扱ふ 四分音符、二分音符、四分休止符のもの 後半は口授法により歌詞唱誦指導をなす ▲和音感訓練 (和音感体操、春の観察遊戯、航空遊び)	40	2 / 26 ～ 3 / 2	一、音名指導 復習(十三) 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音聴音 復習(十) 四、抽出唱(分離唱) 復習(十) 五、分散唱(分割唱) 復習(七) 六、単音抽出 復習(三) 七、自由発唱 復習(三) 八、重音合唱 復習 基礎カデンツ三声唱	◎ひなまつりを総合保育主題とし、各保育項目を総合的に取扱ひつゝ、楽しく音感遊びを行ふ。 新授歌曲ひなまつりを授けるに當り、その一部分を読譜視唱として取扱ふ事により基礎諸訓練を総合的に扱ふ。 (読譜視唱以外の場所及歌詞は口授法にて授く)



堺市立幼稚園の和音感教育を取り入れた保育実践

				41	3 / 4 ～ 3 / 9	一、音名指導 復習(十三) 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音聴音 復習(十) 四、抽出唱(分離唱) 復習(十) 五、分散唱(分割唱) 復習(七) 六、単音抽出 復習(三) 七、自由発唱 復習(三) 八、重音合唱 復習 基礎カデンツ三声唱	◎先週来のひなまつり遊びを継続し、楽しく総合的保育をなしつつ、基礎訓練を総合的に取扱ふ。
				42	3 / 11 ～ 3 / 16	一、音名指導 復習(十三) 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音聴音 復習(十) 四、抽出唱(分離唱) 復習(十) 五、分散唱(分割唱) 復習(七) 六、単音抽出 復習(四) 七、自由発唱 復習(四) 八、重音合唱 復習 基礎カデンツ三声唱	◎新曲の読譜視唱により音名リズム読み、和音聴音抽出唱により総合的に基礎訓練を取扱ふ。  ▲新曲 (1)タンポポ兵隊 (2)修了の歌 (題材集より)
				43	3 / 18 ～ 3 / 23	一、音名指導 復習(十三) 二、拍節的読譜練習 復習 三、和音聴音 復習(十) 四、抽出唱(分離唱) 復習(十) 五、分散唱(分割唱) 復習(七) 六、単音抽出 復習(三) 七、自由発唱 復習(三) 八、重音合唱 復習 基礎カデンツ三声唱	◎ひなまつり遊びにより楽しく遊ぶ裡に総合的に既習の諸訓練を取扱ふ。 ▲新曲の読譜視唱により音名読み、音名リズム読み、和音聴音、抽出唱をへて視唱する事によつて基礎的訓練を構成的総合的に扱ふ。 新曲 (1)お洗濯 (2)修了の歌(題材集より)
備考	毎日一回音名指導並に和音感訓練を致しました。			備考			

(堺市保育会編「幼児の和音感教育について」(1938年10月、ガリ版刷り)、  
佐藤吉五郎『和音感教育』(三喜堂、1940年)、佐藤吉五郎『和音感教育改訂版』(三喜堂、1941年)より作成)